

労働安全衛生マネジメント

積水ハウスグループでは、従業員ならびに委託業者等の安全・健康を第一に考え、日々業務を行っています。労働災害が発生した場合、事務・生産・施工の部門ごとに安全衛生委員会で事例を共有し、職場の安全衛生に関するPDCAサイクルを回しています。

休業災害度数率・業務上疾病度数率

2017年度の部門別の休業災害度数率・業務上疾病度数率は、各種取り組みの結果、2016年度と比較しておおむね下がりました。引き続き要因分析を行い、安全衛生意識の向上、不安全行動の防止、災害や疾病につながる長時間労働の抑止等に取り組みます。

休業災害度数率/業務上疾病度数率 (休業1日以上を集計)

部門	休業災害度数率		業務上疾病度数率	
	2016年度	2017年度	2016年度	2017年度
事務部門(従業員※1)	0.16	0.10	0.00	0.07
生産部門	従業員※1	0.40	0.00	0.00
	委託業者※2	1.22	0.51	0.00
施工部門(委託業者のみ)	2.57	1.89	0.34	0.20

※1 積水ハウス単体

※2 2016年度は生産・出荷業務・資源循環に携わる委託業者従業員のみを集計していたが、より安全衛生の管理実態に沿った集計範囲とするために、2017年度より事務職を含め、業種を問わないこととした。
2016年度と同様の集計範囲により算定を行った場合の2017年度の休業災害度数率は0.60、業務上疾病度数率は0.00です。

施工現場での労働安全衛生活動

すべての施工従事者の労働安全衛生の確保は、当社グループの社会的責任であり、重点的に取り組むべき項目の一つと考えています。当社グループでは施工従事者が安全に安心して働くことができるよう、2017年度の「**全社施工安全衛生年間計画**」で「**重大な災害を起こさない**」「**災害増加に歯止めをかける**」を重点対策としました。結果、2017年度は労働災害発生件数を減少させることができました。

2017年度 災害発生状況

- 施工現場での労働災害発生件数は前年度比2割強の減となり、墜転落災害も減少しました。ただし、脚立や作業台、はしご等の昇降用具からの墜転落が4割以上を占め、「身を乗り出す」「整理整頓しない」「短いはしごを使用する」等のヒューマンエラーによるものが増えています。
- 外部足場は適正な設置が進み、使用者にも「足場組立等特別教育」を実施し、モノ・ヒト両面からの対応で災害が減少しました。
- 夏場の建設現場では熱中症の発生リスクが高まります。

勉強会の実施や塩あめの配布等の対策だけでなく、2017年から屋外作業者に空調服の着用を推奨し、熱中症が3割減少しました。

- 建物解体等、建物の仕上げに使用された石綿含有建築用仕上塗材の飛散防止対策は、関係省庁の基準に沿って説明会を開催し、対応しました。

2018年度の取り組み

2018年度「**全社施工安全衛生年間計画**」では、各営業本部・各事業所にて「**不安全行動の徹底排除**」「**点検・作業手順・整理整頓**」「**同種災害の防止**」の三つの観点から、災害防止対策を推進します。

2018年度スローガン

「点検」「手順」が作業の基本 **しない させない 不安全**

「全社施工安全衛生年間計画」の骨子

- 主たる実施項目(重機災害・重機事故防止、墜転落災害防止、熱中症予防)は、不安全行動および不安全状態の排除を念頭に置き、各事業所で独自の重点実施対策を決めて実践する。
- 中層住宅の建物外周部の手すりを標準化し、墜転落災害を防止する。
- 熱中症予防の空調服は、2018年度もさらに推進する。
- 同種災害(同じ型、同じ起因物の災害)の防止のため、各事業所で以前に発生した災害の再発防止対策を周知徹底し、実践、定着を見届け、同種災害を阻止していく。



「労働安全スローガン」ポスター